

# 治水対策の目標流量について

平成27年11月9日

国土交通省 関東地方整備局  
独立行政法人 水資源機構

## 思川開発事業の検証における目標流量について(1)

1. 「ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目」(以下、「検証要領細目」という。)において、複数の治水対策案は、河川整備計画において想定している目標と同程度の目標を達成することを基本として立案することが規定されている。

### 【参考】

#### 「検証要領細目」(抜粋)

個別ダムの検証においては、まず複数の治水対策案を立案する。複数の治水対策案の一つは、検証対象ダムを含む案とし、その他に、検証対象ダムを含まない方法による治水対策案を必ず作成する。検証対象ダムを含む案は、河川整備計画が策定されている水系においては、河川整備計画を基本とし、河川整備計画が策定されていない水系においては、河川整備計画に相当する整備内容の案を設定する。複数の治水対策案は、河川整備計画において想定している目標と同程度の目標を達成することを基本として立案する。

## 思川開発事業の検証における目標流量について(2)

2. 利根川水系利根川・江戸川河川整備計画【大臣管理区間】では、「基準地点八斗島において $17,000\text{m}^3/\text{s}$ とし、このうち、河道では計画高水位以下の水位で $14,000\text{m}^3/\text{s}$ 程度を安全に流下させ、洪水による災害の発生防止又は軽減を図る。」ことを整備の目標としている。

また、思川圏域河川整備計画【栃木県】では、目標流量と思川開発事業(南摩ダム)との関係に明確な記載がないことから、治水対策案の検討に先立ち、以下のとおり目標の考え方を確認した。

- ・ 栃木県では、思川圏域河川整備計画【栃木県】の目標に記載している「平成14年7月降雨規模の洪水と同等の洪水を安全に流下できる河道の整備を目指します。」とは、近年発生した洪水のうち計画規模と同程度の洪水を目標として示したもので、思川乙女地点における河道整備の計画流量を $3,700\text{m}^3/\text{s}$ としている。
- ・ 計画策定の際に、思川開発事業(南摩ダム)は計画期間内に完成すると考え、南摩ダムによって治水安全度のさらなる向上が図られると想定していたが、計画では河道整備の目標流量のみを記載したものである。

このため、検証を進めるにあたって思川に関しては、乙女地点におけるダムありでの洪水調節後の流量が思川圏域河川整備計画の河道整備の目標流量 $3,700\text{m}^3/\text{s}$ になる場合、ダムなし流量は $3,760\text{m}^3/\text{s}$ であることから、これを目標として南摩ダムに代替する効果を有する複数の治水対策案を立案することとする

3. 複数の治水対策案は、利根川水系利根川・江戸川河川整備計画【大臣管理区間】及び思川圏域河川整備計画【栃木県】で想定している目標と同程度の目標を達成することを基本として立案する。